

平成30年度 文教福祉常任委員会意見交換会報告書

開催日時	平成30年10月10日（水）午後1時30分～午後3時
開催場所	健康増進センター 研修室
テーマ	地域で支える子育て支援
出席議員	齊藤隆浩委員長 根岸 操副委員長 佐野正幸委員 村元 寛委員 加賀奈々恵委員 加藤 清委員 小川 匠委員
参加人数	参加者10人（団体名 母子保健推進員連絡協議会）
実施内容	<p>① 議長挨拶 尾崎孝好議長 ② 自己紹介 出席者全員 ③ 議会説明 村元寛委員 ④ 母子保健推進員活動の説明 ⑤ 母子保健推進員より現状と課題発表 水谷支部・鶴瀬東支部・鶴瀬西支部・南畑支部の4支部の代表者より ⑥ 意見交換 現状と課題発表を聞いての質疑応答 母子保健推進員からの要望 ⑦ まとめ感想 齊藤隆浩委員長</p> <p>オブザーバー 尾崎孝好議長、深瀬優子意見交換会実行委員長 議会事務局 本多事務局長、水宮主査 健康増進センター 中村保健師（主任）、島田保健師（主事補） 研修学生2名</p>

〔母子保健推進員活動説明〕

- 母子保健推進員は、2～3カ月の赤ちゃんの居るお宅を全戸訪問している。また7～8カ月児のお宅の訪問は希望制になっている。
- 年8回、1歳未満の赤ちゃんとお母さんと私たちが交流する場「わくわく子育てトーク」や、今度10回目を迎える就園前のお子さんが対象のファミリーコンサート等を開催している。
- お母さんが密室の育児にならない様に、近年は公民館に行って地域のお母さん達と交流する場を設けている。
- 私たちは私達にしか出来ないこの活動を尊い活動と思い、これからも頑張っていく。

〔母子保健推進員より現状と課題発表〕

○水谷支部

- 全体交流会を年に2度ほど行うが、その研修会で新しく推進員なった方の悩みや困った事をまとめてみた。
- アポイントを取るときに相手の家に電話がなく携帯なので、こちらの携帯からかけると警戒されるため、家の電話からかけるようにしている。
- 電話がダメならポストイングをして、身分を伝えて相手からの連絡を待つ。
- 2人目だから3人目だから結構です、と断られる事もある。
- 難しいのは推進員としてのお母さんとのスタンス。自分の経験上の話をしてもらいたいが、つつい専門的な所まで答えてしまいたくなる。そのことは協議会として話をしているが、推進員全員が参加していないので共通認識が持てない時がある。
- 先輩のお母さんとして、古い情報を言ってしまう事もある。
- 外国人が増えている。電話での会話が通じない。外国人のお母さん達との言葉の壁が悩みどころ。
- 表札を出さない家もある。表札がないとポストイングの際にどこに入れたら良いのかわからない。
- ベビーカーを押して、気軽に買い物に行ける場所がない。食料品や衣類など何カ所もベビーカーを押して回るのは、車のないお母さんたちには大変だ。

○鶴瀬東支部

- 子育てをしていると家にこもりがちになる。なるべく外に行ける様に、支援センターやわくわく子育てトークや、保育園での遊ぼう会など、お子さんと行けるところの紹介は必ずしたいと思っている。
私たちの場所は鶴馬1丁目なので、ふじみ野交流センター、鶴瀬公民館で活動している。
- 課題は、私たちは子育ての先輩と言う事で、あまり専門な事は言えないが、一番多い相談として働いている人が多いので、保育園に入れたいとの声がある。
- 鶴馬1丁目地域は、鶴瀬駅から非常に近い。保育園はたくさん有るが、空いている保育園は駅から遠い。駅から離れた保育園に自転車で行き、また駅まで行くのは難しい。入所希望の保育園が、駅近くに集中してしまうため入れなかった方が多かった。

○鶴瀬西支部

- 一番感じているのは、最近のお父様方は優しいと言う事。
ご主人がお休みの時は1日子どもを見ているので、奥さんに出掛けておいでと声をかけたり、ご主人がよく子育てを手伝ってくれるなどの話を聞く。
- 地域は鶴瀬駅西口の近辺なので、マンションがたくさん出来ている。公園も駅の近くに出来ていて遊び場所も増えている。
- 交流センターがあるので、地域の方が遊びに訪れている。お友達を作りたくて交流センターに行かれるお母さんたちも多い。
- 最近外国人も増えて来ている。過去4年間で、4人の方に訪問が出来ていない。
- さいたま市から転入して来た方を訪問した時、2人目のお子さんだったが、上の子がさいたま市の保育所に通っていたので、今もさいたま市の保育所に車に下の子を乗せて連れて行っている。こっちに住所を移したので、また仕事も復帰したいので富士見市の保育所に預けたいと聞いている。富士見市は市長も皆さんも、子育てしやすいまちを念頭に頑張っている事もお話しさせて頂いた。
- どこに遊びに連れて行っているのかを聞くと、ららぽーとに買い物をしながら行く、との答えも多くある。

○南畑支部

- 南畑地区は他の地区とは少し違う。南畑地区は第1から第5町会まであり、市では広い地域を占めているが人口は少ない。
- 数年前までは調整区域で、住宅はほとんど農家の長男が新たに家を建てるという事がなければ、転入されてくる事がほとんど無い地域だった。
- 世代も祖父母と若い世代の大家族の地域だったので、保育や子育ての心配はなかった。
- ここ数年住宅が急速に増えて来たため、世帯もかなり増えている
- 表札が無く、市から頂いた地図もこの辺りとかで大枠でくくられているだけなので、自分で既存の地図に表札の名前を落としている。
- 携帯からの電話は不審がられるので、母子保健推進員で市から依頼を受けて訪問していますと、紙に名前と電話番号を書いてポストイングしてから連絡している。
- 最初は留守電だが、その後折り返しかけて来たり、中には怪しい人かとお主人が出て来て、その後奥さんが出て来てくれた事もある。
- 農村地域のため公園が少ない。私たちが子育てしている時は、近隣の施設や遊具のある施設に連れ歩いたが、今のお母さんたちは気軽にお子さんを連れて遊ばせたいとの声もある。
- ママ達が集う場所が非常に少ない地域。集う場所や子どもを連れていける、ちょっとした遊び場所や、休憩できるベンチやお花が植わっている様なママ達の交流する場所が欲しい。
南畑地域では、そういう事を市にお願いしたい。
- 集会所もあるが、どうやって使ったら良いのか新しい方はわからない。集会所にお茶菓子持って、畳の部屋で集まれるのでないかと私個人では思っているが、集会所をどのように使って良いかわからないところもある。

- 保育園の空についていて聞かれるが、市の方に問い合わせ下さいと言っている。
- 小さい子どもがいる母親が病気の時の支援は、まだまだ足りないのではないかと思う。

〔意見交換会〕

- 先日、7～8カ月児訪問をした方から、もう一杯一杯で限界、こどもを捨てて何処かに行きたい、と電話が入った。
まずは、電話のお礼を言って励ましながら、健康増進センターにつなげた。
- 母子保健推進員を2年やっていて、2軒訪問し2軒とも韓国の方だった。
難しい質問もあるが、母子保健推進員の電話番号を伝えたり、健康増進センターに繋げるようにしている。
- 外国人の方へ交流センターを紹介するが、言葉がわからないため、行くのが怖いと言われた。旦那さんと一緒に行く事を勧めたら安心してた。
- 保育園に入れたいお母さん達は多いと思うが、2～3歳まで一緒にいる時間も大切でないか。
- 山室は、ららぽーとが近くにあるので地域的には育てやすい。
- 最初は会えないので、ポスティングして身分を明らかにする所から進めている。
- 昨日も1軒訪問したが、お母さんだけでなく、お父さんも赤ちゃんを抱っこして一緒に話を聞いている姿を見て、時代が変わって来たと感じる。
- 新しい人は閉鎖的なので、赤ちゃんの遊べる場所と小児科の紹介をしている。
- 今は核家族で不安な方が多い。7～8カ月児の訪問は希望制だが、ほとんどの方が希望される。
- 今はママから聞いてくるので、何でも教えてあげられるように努力している。
- 子育て関係にについて、詳しく書かれている子育てガイドは、お母さん達皆持っているが、見てくれないのが現状だ。
- 課題は母子保健推進員のプライバシーがない事。自分たちの身分はポスティングするが、相手がどんな人かわからないのは不安。
- 母子保健推進員は、自分の都合のよい時間でできるから良いと言う方もいる
- 市で、母子保健推進員の人数を何名と決めてくれると良いのだが。
- 自分自身が高齢なので赤ちゃんにふれあい、若いお母さん達と話せる事はとても勉強になる。

〔感想〕

- 母親の要望は保育所不足があるが、2歳位まではお母さんに子育てに関わって育てて欲しいとの意見も大切と感じた。
- 児童虐待の防止にとっても、ひとつの大事なセクションになると感じた。
- 地域のお母さんたちとの関係をつなぐ役割も持っているということは、地域において大変重要な役割を果たしていると再認識した。
- お母さんからの相談や困った事等を皆さんが受けてくれて、健康増進センターや市につなぐことで、お母さん達がどんなに安心して子育てが出来ているかも良く分かった。
- 子育て経験は人それぞれであり、世代によっても、働くことや父親の育児、

保育園に預けることなど、考え方や感覚が異なるので、個人の考え方や価値観を、新しく親となった人に伝えることがよい場面とそうでない場面があると思う。そのあたりをどう整理して取り組むかが課題と感じた。

- これまでの意見交換会への参加者は、議会に興味のある方。今回は議会にあまり馴染のない方が多く、議会活動を市民に知っていただく良い機会になった。
- 時間に限りがあり深い話まではできないものの、テーマが絞られているため、これまで行ってきた意見交換会の中では中身が濃いものとなったと感じる。

〔まとめ〕

富士見市の母子保健推進員は、55町会93名で赤ちゃんがいる家庭が安心して子育てができるよう活動している。2～3カ月児のいる家庭の89%を訪問している。

その中で本市は「子育てするなら富士見市で」という方針のもと、子ども未来応援センターが開設され、妊娠から出産・育児・子育て支援ということで、悩みの相談などの解消にむけて事業がすすめられている。富士見市の子育て環境が良好に行われているのは、母子保健推進員の活動の支えがあることが実感できた。

また、母子保健推進員の訪問先での依頼事項や困りごとは、母子保健推進員が作成する報告書によって健康増進センターに伝えられ、それらの問題は改善されている点もあるようだが、今後、出された課題や要望を市政に反映させていくことも必要と感じた。委員会としても、今回のような団体と意見交換ができたことは大変有意義であった。

以上

※この記録は、意見交換会での発言をまとめたものです。
発言内容は、趣旨が読み取れる範囲で一部要約してあります。